

# NVC Monthly



## 寝屋川映像同好会会報

第42号(20121116)

発行 竹田 幸男

### 大阪アマチュア映像祭

11月4日(日)大阪アマチュア映像連盟が大阪市立中央図書館を会場に開催、谷さんの「ありがとう」を出品、好評を得ました。



大阪アマチュア映像祭会場



終了後懇親会で挨拶する谷さん

### 市民活動センターふれあいフェスタ



11月10日(土)市民活動センターで開催、映像協会では会員が活動団体のPR映像を制作して会場で映写し、多数の観客に見て頂きました。(詳細は例会議事録参照)

### 合同例会・忘年会

映像協会主催で12月15日(土)10時30分より門真市の松心会館で開催され、合同例会の後忘年会で有意義な1日を過ごしました。



## 例会の窓

### 平成24年11月例会

日 時 平成24年11月16日(金)

13:30～16:30

場 所 寝屋川市民活動センター

4階 こども部屋

出席者 新井 天野 石田 小笠原 佐伯

竹田 竹下 田淵 谷 (9名)

欠席者 なし(50音順 敬称略)

#### 例会次第

##### 1. 報告・連絡・協議事項

##### (1) 市民文化祭の件(11月4日(日))

- ・総合センター視聴覚室で開催、16作品を上映した。
- ・DV8、ハイビジョン8作品で、ハイビジョン作品が増えてきた。
- ・ビデオカメラの動向から当然の成り行きであろう。
- ・ぼつぼつ対応を考える必要があるのではなからうか？

##### (2) 大阪アマチュア映像祭の件(11月4日(日))

- ・寝屋川市映像協会から5名(当会4名)参加
- ・多くの観客に感動を与えたと考えられる。

##### (3) ふれあいフェスタへの参加の件(11月10日(土))

- ・7団体9作品を制作、当日会場で上映、同好会からは4人が参加し、5作品を提供しました。
- ・ビデオ編集実演は準備したが、来客はなかった。
- ・47名の来客があり、盛況であったと考えられる。
- ・団体の要望に応えたPR作品であり、作品作りの勉強になった。
- ・今後撮影依頼があった場合は、我々の映像作品として使うこともあることを条件として応じる。
- ・参加収入5,000円、関連出費4,940円 映像協会会計で処理する。

##### (4) サカイ8ミリ映像フェスティバルへの返礼要員の件

- ・11月25日(日)堺市民会館 小ホール。
- ・寝屋川市映像協会として、小笠原さんが出席する。

##### (5) 映像寝屋川との合同例会・忘年会の件(既報の通り)

- ・松心会館 2F 鶴の間に於いて
- ・会 費 4,000円の予定
- ・50型TV、スピーカー・アンプ(会館に確認、石田さん)
- ・12月15日(土)10:30～12:30 合同例会

12 : 30 ~ 14 : 30 忘年会

14 : 30 ~ 17 : 00 カラオケ

・開会に先立って、 9 : 30 ~ 映像協会役員会を開催

( 6 ) ローランド編集機講習会の件 ( 詳細はメールで送信済み )

・ 12月17日 ( 月 )

・ 受講希望者は、竹田さんまで申し込み。

( 7 ) 同好会の新年会・1月例会の件 ( 既報の通り )

・ H25年1月例会・新年会

・ 1月11日 ( 金 )

・ がんこ寿司に於いて 新年会 ( がんこ予約済、田淵さん )

・ 寝屋川市民活動センター 4階 子供部屋に於いて例会  
新年会終了後開催 ( 場所予約済み )

・ カメラ担当 : 竹田さん。

( 8 ) 市民活動センター体験講座の件 ( 既報の通り )

・ 竹炭の作品、ふれあいフェスタ参加団体PRビデオ素材を活用した作品を  
教材とする。

・ 松愛会の会にも声がけする。

・ 編集実演実施も検討する。

・ 20人程度を対象にしたものとしたい。

・ 講座開催を、平成25年1~2月に実施する。

( 9 ) 文化連盟展の件 ( 既報の通り )

・ 25年2月10日 ( 日 )

・ 映像協会として出品 ( アルカスホール )

・ 持ち時間30分 ( 7分×4作品を予定 )

・ 作品は、これまでの大阪アマチュア映像祭出品作品から選考する。

・ 入場券 ( 千円 ) の半額を会が負担する。多数参加を乞う。

( 10 ) 撮影会プロジェクトチーム ( 天野さん、小笠原さん )

・ 日帰りまたは一泊の撮影会を検討する。

・ 「男性モデルが、無言の演技をする複数の情景」を撮影。

・ ストーリーは、撮影者がそれぞれに考え作品に仕上げる方式。

・ 数人でテスト撮影を実施。実行可能と判断できれば、映像寝屋川に提案し、  
賛同が得られれば実施する。

・ 新しい試みに挑戦してみようではないか。

( 11 ) 第6回ビデオ作品発表会

- ・ 10周年記念発表会
- ・ 平成25年4月20日(土)実施で推進する。
- ・ 松心会館の主会場、打ち上げ会場予約済(田淵さん)
- ・ 1月例会から出品作映写
- ・ 2月例会で出品作確定
- ・ 3月中にプログラム作成が必要  
     プログラムデザイン募集  
     3月末松愛会会報に折込  
     3月例会でプログラム配布
- ・ 各自余裕をもって作品作りを進めること。
- ・ 竹下さんは、「ゆうちゃん 神戸花鳥園に遊ぶ」で
- ・ 新井さんは、「竹炭」「絵画部」で
- ・ 石田さんは、「お孫さん」を題材に、これから作品作り
- ・ 天野さん、谷さんは、これから作品作りを考える。
- ・ 小笠原さんは、作品作りは難しそうである。

(12)「NVC Monthly」の記事執筆者の件

- ・ 次回担当 石田さん。

(13) 12月は(5)項のように12月15日に映像寝屋川との合同例会・忘年会を松愛会館で行い、1月例会は(7)項のように1/11日(金)11:00よりがんこで新年食事会、ついで市民活動センター4階子供室で1月例会を行います。

## 2. 作品発表

(1)「ゆうちゃん 神戸花鳥園に遊ぶ」 竹下さん 10分

- ・ 先月の例会で上映したものを手直しした作品

以下は、ふれあいフェスタ参加団体PR用に作成した作品

(2)「えるちゃん 仲間たちのいち日」 天野さん 10分8秒

(3)「ナルクかづきの会」 竹田さん 8分

(4)「えるちゃん」 新井さん 9分27秒

(5)「竹炭づくりの仲間たち」 谷さん 8分

(6)「えるちゃんの一日」 竹田さん 9分59秒



## 久しぶりに教壇に

石田 昇

小学時代絵を描くのは好きで図工クラブに席を置いていた。

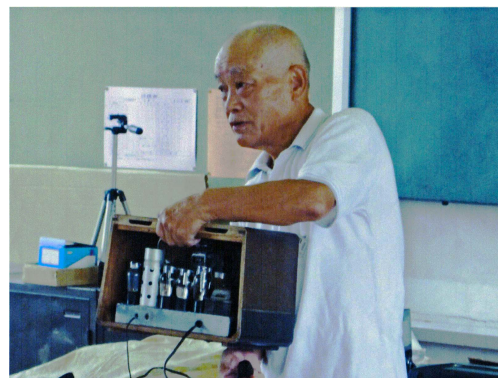
それから60年余り定年後始めた絵画、あまり得意では無いが、子供達に教えられる、近くの小学校に土曜子供教室があり、習字、マンガ、野球、サッカー等を年間数回あり、絵画教室をやって欲しいとの依頼があり引き受けた、年に数回ではあるが、孫のような子供達、大変楽しませて貰っている。



電気教室風景

子供達を見ていて、自分には何か得意な物は無いか考えた。楽器は何もダメ、スポーツもダメ、長い人生何してた？

そうだ、俺は何でも直すアナログ時代の電気屋だ、子供達に電気を教えよう、交流、直流、直列、並列、電気を作る、貯める、流す、等電気の基礎を教えよう。幸い我が家には大昔のラジオ、テープレコーダ、レコードプレーヤ等があり教材には最適、第一回電気教室を実施する事が決まりました。



電気教室の石田さん

さー大変昔を思い出し猛勉強、紙芝居作り、LEDの現物、小さな電気部品集め準備に追われる日々が続いた。

当日28名の子供達が登校してきた、約2時間の授業、話すレベル差大きく(1-6年)思っていた半分も話せない電気教室になり大反省。最後にLEDを点灯させる実習もあり皆んな楽しく喜んでくれた。

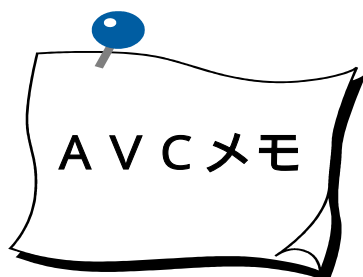


久しぶりの教壇、次回はもっと楽しい、分かり易い、[電気]て面白いなー、こんな教室にしたいものだ。

大昔昭和61年頃、電子学校、松学院、奈良研修センター等でBSアンテナ受信講習会講師を約10年担当していた事を思い出す。



大昔！ の石田さん イメージ全く違いますね



## ハイビジョンとフルハイビジョン

竹田 幸男

例会で、クラブ用のテレビを買うかどうかの議論になったとき、どうも用語の理解が曖昧なような気がしたので、また再度書くことにします。

電気店の店頭へ行くと、テレビには「ハイビジョン」と「フルハイビジョン」の2種類の表示があります。何処がどう違うのでしょうか。そしてどちらを買えば良いのでしょうか。

ハイビジョンというのは従来の標準方式、日本で言えば480iと言われる720×480ドット(画素、以下画素という)、縦横比4:3の画面に対して、それより画素の画面の多いものを言うので、720pという1280×720画素、縦横比16:9(約92万画素)のものでハイビジョンとされていましたが、今は地上デジタル放送の1440×1080画素、BSデジタルの1920×1080画素がハイビジョンとされていて、さらに詳しくは1440×1080画素のものがタダのハイビジョン、1920×1080画素のものがフルハイビジョンとして区別されているようです。フルハイビジョンは縦横のドット数の掛け算をすれば207万余画素となります。ところが店頭で「ハイビジョンテレビ」として売られているものが持つ画素数は1366×768画素しかないものがあり、掛け算をすれば104万9088画素となり、105万画素弱しか無く、フルハイビジョンの207万画素の半分しかありません。映像を「半分に間引いて」荒い映像を映写していることとなります。「フルハイビジョン」と称して売られているものは1920×1080画素、掛け算して207万3600画素になり、「フル」が付くか付かないかで画素数が2倍も違うのです。映像の志ある人は「フル」を買うべきですね。お宅のテレビはどちらか、もういっぺん見直してください。

画素数が「フル」の半分でもテレビ放送では高価なカメラで撮影した映像なので、そこそこに美しく見えますが、私たちが使う安価なカメラで撮った場合は、どうしても元々の映像の質はテレビ局のものより劣るわけですから、少しでも元の映像の画素数に合ったテレビで、きれいに見たいものです。

一般に売られているテレビは32型以下ではほとんど1366×768画素、105万画素弱のもので、37型以上になれば殆ど1920×1080画素のフルハイビジョンです。小さいサイズではドット数(画素数)の多いものは作りやすく割高になるためと思われ、大型になるとフルハイビジョンの画素数でも作りやすく、割安になるものと思います。店頭で売られている価格を見ても32型のフルハイビジョンのテレビよりも、より大きい37型のフルハイビジョンテレビの方が(同じランクのものでは)安い値段で買えることから見ても納得できるでしょう。

なお、参考までにテレビの場合の1ドット(1画素)とは、赤・緑・青の3つのドット(画素)を組にしたものを1つのドット(画素)と表現していることにご注意ください。